

## 第 25 回建物・構築物検討会 議事録

1. 日時 平成 26 年 5 月 19 日 (月) 14:00~17:00

2. 場所 日本電気協会 4 階 D 会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

出席委員: 久保主査 (東京大学), 北山副主査 (首都大学東京), 今村幹事 (東京電力), 高橋 (東京電力), 高橋 (北海道電力), 大河内 (中部電力), 藤井 (北陸電力), 大竹 (東北電力), 増田 (四国電力), 橋本 (中国電力), 続 (九州電力), 奥谷 (日本原子力発電), 清水 (大林組), 萩原 (清水建設), 森山 (大成建設), 伊神 (三菱重工業)

藪内 (鹿島建設), 平子 (日立 GE), 辻 (JANSI) (計 19 名)

代理出席: 中野 (電源開発・武井代理), 秋田 (関西電力・伏見代理), 羽場崎 (竹中工務店・大宮代理), 波多野 (東芝・中島代理) (計 4 名)

欠席委員: (計 0 名)

常時参加者: 田守 (信州大学) (計 1 名)

オブザーバ: 福島 (鹿島建設) (計 1 名)

事務局: 井上, 志田 (日本電気協会) (計 2 名)

4. 配布資料

資料 No.25-1 第 24 回建物・構築物検討会議事録(案)

資料 No.25-2 建物・構築物検討会委員名簿

資料 No.25-3 JEAC4601-2008/JEAG4601-2008 改定スケジュール (案)

資料 No.25-4 「第 3 章 建物・構築物の耐震設計」改訂案概要

資料 No.25-5 「第 3 章 建物・構築物の耐震設計」改訂案新旧比較表

参考資料1 JEAC4601 に関する建物・構築物と他検討会との課題共有会議議事メモ

参考資料2-1 JEAC4601 「第 3 章 建物・構築物の耐震設計」改訂案に対するコメント

参考資料2-2 JEAC4601 「第 3 章 建物・構築物の耐震設計」改訂案 (H26.2.19 版) に対するコメント

5. 議事

(1) 配付資料確認, 委員交代確認, 定足数確認,

事務局より, 代理出席者 4 名及びオブザーバ 1 名が紹介され, 規約に基づき久保主査の承認を得た。

代理出席を含めて全委員 23 名出席であり, 決議に必要な「委員総数の 3 分の 2 以上の出席(16 名以上)」を満たしていることを確認した。

(2) 前回議事録の確認

事務局より, 資料 No. 25-1 に基づき, 検討会の前回議事録(案)の概要説明があり, 以下を修文することで正式議事録とすることを確認した。

・1 頁, (3), 6~7 行目, 「解説への記載なので良い悪いではなく, こんな研究もあると言った記載とし, ……」 → 「解説として, このような研究もあるといった記載をし, ……」

(3) 検討会委員の変更について

事務局より, 資料 No. 25-2 に基づき, 検討会委員の変更について説明があった。正式には次回の耐震設計分科会における承認により決定となる。

【変更】(1 名)

・大宮 幸男 (竹中工務店) → 羽場崎 淳 (竹中工務店)

(4) JEAC4601 の「第 3 章建物・構築物の耐震設計」の改訂 (ドラフト案) について

1) 幹事より, 資料 No. 25-3 に基づき, JEAC4601-2008/JEAG4601-2008 改定スケジュール (案)

の説明があった。スケジュールについては、今年の3月に耐震設計分科会に中間報告する予定であったが、少し遅れて次回の耐震設計分科会(6月9日開催予定)に中間報告し、6月20日の原子力規格委員会に上程する予定とした。また、その後のスケジュールについても、最終案を作成し、分科会(8月末頃予定)、規格委員会(9月開催予定)に上程し、平成26年度(平成27年3月)中に公衆審査を完了させることで進めることとなった。

2) 各担当委員より、資料 No. 25-4, 5 に基づき、JEAC4601 の「第3章建物・構築物の耐震設計」の改訂(ドラフト案)について、主に前回のコメントの反映箇所及び2008度版から変更した箇所について説明があった。議論の結果、今日のコメントを反映し、次回の耐震設計分科会に中間報告することが了承された。

3) 幹事より、参考資料1に基づき、JEAC4601に関する建物・構築物検討会と他検討会との課題共有会議議事メモについての紹介があった。前回、建物・構築物検討会の中で議論があり、建物側だけでは決めるのが難しい課題について、地震・地震動検討会、機器・配管系検討会と打ち合わせを行ったものである。

地震・地震動検討会との主な議論内容としては、①地震荷重の組み合わせを水平1と上下の2方向だけにすることは難しいこと、②原子炉建屋屋根トラスについては累積ひずみでの検討になり、継続時間を規定する必要があること、③埋め込み金物の面外引張り応力、面内せん断ひずみの評価について、電力共同研究の成果を反映し緩和可能であること等である。

機器・配管系検討会との主な議論内容としては、①弾性設計用地震動  $S_d$  について第1章で共通規程にすること、②重要度分類に津波防護施設等、特定重大事故等対処施設を記載する等である。

4) 担当委員より、参考資料2-1, 2に基づき、改定案に対するコメントの紹介があった。

(5) その他

・次回検討会は、7月22日(火)14時~17時で実施することとなった。

以上